

四月の雪

2005(平成17)年9月17日鑑賞(梅田ブルク7)



監督=ホ・ジノ/出演=ペ・ヨンジュン/ソン・イェジン/イム・サンヒョ/リュ・スンス
(UIP 配給/2005年韓国映画/107分)

第3章

映画館の暗闇で人間観察

……満を持してのヨン様の登場だが、純粋な韓流純愛ドラマではなく、ちょっとひねったもの……？ すなわち、交通事故で重態となった男女が不倫関係にあったことを知ったその夫と妻が必然的に(?)たどりつく不倫がテーマ……？ 登場人物は99%主人公の2人だけという静かな淡々とした心理ドラマ(?)だが、筋書きや行きつく先が予想できるだけに、ちょっと退屈……？ 日本のオバちゃんたちは、ずっとこんなヨン様を応援するの……？

淡々とした「ワン・イッシュ」映画……？

郵政民営化法案への賛否を唯一の争点として、衆議院を解散し総選挙に打って出た小泉首相の手法をめぐる、にわかに「ワン・イッシュ」すなわち1つの問題点(=争点)というカタカナ言葉が今はやっている。「1つの争点」と言えばいいものを、「ワン・イッシュ」と言うと、なぜかそう語っている人が利口そうに見えるらしい(?)が、そんな時代はもう終わったのでは……？

なぜこんなことを書くかというと、この映画を観ていて私は、この映画はまさに「ワン・イッシュ」映画だと思ったから……？ この映画は、交通事故で瀕死の重傷を負い意識不明となっている女性スジン(イム・サンヒョ)と男性ギョンホ(リュ・スンス)が不倫関係にあったことを知った、その夫であるインス(ペ・ヨンジュン)と妻であるソヨン(ソン・イェジン)の2人が、自分の妻や夫の看病を続ける中でお互いを意識し合い、愛するようになっていくというドラマ……？ そして、まさにその1点に争点(?)をしばり、登場人物も99%がインスとソヨン2人だけというワン・イッシュ映画……？

8月8日の参議院本会議での郵政民営化法案の否決に始まり、9月11日の選挙特番でクライマックスに達した第44回衆議院議員総選挙は、ワン・イッシュながらも最高の盛り上がりを見せたが、同じくワン・イッシュの『四月の雪』は全然盛り上がりがなく、全編これ淡々とした展開……。ヨン様ファンは彼の顔がスクリーンに写し出されるだけでいいのかもしれないが、正直言って私にはかなり退屈……？

『春の雪』か『四月の雪』か……？

三島由紀夫の原作を、妻夫木聡と竹内結子の共演で映画化した『春の雪』は、輪廻・転生という難しいテーマを持っているものの、華麗なる大正初期の時代を背景としたまさに本格的日本版純愛ドラマ。『春の雪』も『四月の雪』も「はかなさ」をキーワードとして含んだ同じイメージの言葉だが、この2作品が今年の秋にほぼ時を同じくして公開されるため、私はその両者を大いに注目していたもの。ペ・ヨンジュンの『冬ソナ』は日本女性を虜にした韓流純愛ドラマの本家本元だし、ソン・イェジンが韓国アカデミー賞（大鐘賞）新人女優賞を獲得した『ラブ・ストーリー』（03年）も、『春の雪』の直後に公開される『私の頭の中の消しゴム』（04年）もまさに本格的韓流純愛ドラマ。しかし、この『四月の雪』は本流の純愛ドラマではなく、不倫系……？

不倫系純愛映画『密愛』と対比……？

「姦通罪」が残っていた韓国（？）では、不倫とりわけ人妻の不倫には厳しいものがあつた。韓国映画としては珍しくその不倫を真正面から描いた映画が、キム・ユンジンヒロインとする『密愛』（02年）。私はこの映画を見逃しているが、その原作本を読む限り、この『密愛』はかなりハードな「不倫モノ」だったはずだが、さて『四月の雪』の不倫度は……？ また、妻や夫が不倫していたのなら、自分の不倫は許せるとすれば、この映画でのインスとソヨンの不倫の非道徳性の有無や程度は……？ そこらがこの映画のテーマ……？

なお、『密愛』は最後に重大な交通事故が発生するが、『四月の雪』は、最初の交通事故の発生がすべての出発点……？

🎬 メールその他の証拠品にご用心……

不倫をしている人間は世の中に山ほどいるだろうが、その多くは自分たちのそれはバレないものと考えているはず……？ もちろん、絶対バレるはずはないと確信しているわけではないだろうが、「きっと大丈夫だろう」と自分にいいように考え自分を納得させているのでは……？ しかし、弁護士生活31年となっている私の公私を含めた判断によれば、そのほとんどは判断の誤り……？

すなわち夫や妻は、自分の妻や夫の不倫の雰囲気や臭いを敏感に感じとっているのが大多数。ただそれについて、その妻や夫が、「万一……」とか「ひょっとして……」というレベルにとどめているため、決定的な問題にならないだけ……？ しかし、いざ具体的に証拠を挙げてやろうという意欲を持ち、私的な捜査に乗り出せばたちまち話は別……？ 捜査令状や逮捕令状がなくとも、ちょっとした服装チェックや持ち物チェックさらにはプレゼントチェック(?)などをすれば大体ボロが出るもの……。そのうえ最近は携帯電話があるから、その通話履歴や携帯メールをチェックすればイチコロ……？

文明の利器の発展・進歩は、浮気や不倫をやりやすくさせているばかりではなく、反面そのチェックや犯人逮捕を容易にしていることを理解しなければ……？

🎬 ラブラブ写真は愚の骨頂……？

不倫しているあなたにとって、携帯でラブラブの写真を1枚……などという行動は愚の骨頂。メールに残る写真や文字は誰にも申し開きのできない動かぬ証拠であることを十分自覚しなくては……？ そう考えると、インスもソヨンも海辺での2人だけの世界という雰囲気に負けて(?)ソヨンの携帯でラブラブ写真を撮っていたが、それを見ていると「お前らバカか……?」「自分の妻や夫が失敗したことをその目にしながら学習効果はないのか?」とつい真面目に怒り、お説教しようとしたが……。これって余計なお世話……？

🎬 韓国映画のベッドシーンは迫力なし……？

『密愛』でのベッドシーンがどれくらい強烈なものだったのかは知らないが、

本作のベッドシーンは全然迫力のないもの……？ かつて、『エマニエル夫人』（74年）が大反響を呼び次々と続編がつくられたのは、その女性好みの（？）激しいセックスシーンによるもの……。韓国映画では、ヨーロッパやアメリカ映画と同じような派手な（？）ベッドシーンが期待できないのは仕方ないが、不倫関係にあった妻と夫を看病する中でめぐり会い「深み」に入っていく夫と妻の「許されざる不倫」というテーマともなれば、思い切り大胆なベッドシーンが用意されていなければウソ……？ そう思った私が悪いのか、その期待（？）に十分応えないホ・ジノ監督が悪いのか……？ 95%以上を占めていたおばちゃんたちは、この程度のベッドシーンで十分満足していたのだろうか……？

『八月のクリスマス』のほうが好き……？

本作は、『八月のクリスマス』（98年）、『春の日は過ぎゆく』（01年）を監督したホ・ジノ監督によるもの。私は『春の日は過ぎゆく』は観ていない。しかし、山崎まさよし主演で日本版にリメイクされた『8月のクリスマス』（05年）は9月23日公開の予定で、これは日韓両作とも私の大好きな作品。パンフレットの中で、監督は「不倫とロマンス、その違いは何なのだろう？」というテーマでインタビューに答えているが、それを読んでもあまりしっくりこない……？

2人の主人公を中心とした起・承・転・結のストーリー（？）を淡々とカメラが追っていくという手法は、『八月のクリスマス』も『四月の雪』も全く同じだが、『八月のクリスマス』のほうが圧倒的に状況設定が面白く、主人公たちの人間味をじっくりと鑑賞することができる。それに対してこの『四月の雪』では、当然のように展開していくストーリーが先読みできすぎて、かなり退屈……？

私が観たのは公開初日9月17日（土）の夕方の上映だったが、予想に反して観客は約70%の入り。もちろんその95%は女性だが、あれほど事前の商業で盛り上がっていたわりには満席になっていなかったのは意外……？

他方、これはイヤな予想どおり、上映中、おばちゃんたちはポリ袋をさぐりガサガサと音をたてながらお菓子を次々と口の中に……。その「バカ丸出し」の表情を時折横目に見ながらスクリーン上のヨン様を観ていると、つい「いつまで続く、ヨン様ブーム？」とってしまったが……。 2005(平成17)年9月20日記